

「使徒会議の決議を報告する」

2024年03月20日

使徒たちは、次の手紙を彼らに託した。「使徒と長老たちが兄弟として、アンティオキアとシリア州とキリキア州に住む、異邦人の兄弟たちに挨拶いたします。聞くところによると、私たちのうちのある者がそちらへ行き、私たちから何の指示もないのに、いろいろなことを言って、あなたがたを騒がせ動揺させたとのことです。そこで、人を選び、私たちの愛するバルナバとパウロとに同行させて、そちらに派遣することを、私たちは満場一致で決定しました。このバルナバとパウロは、私たちの主イエス・キリストの名のために身を献げている人たちです。それで、彼らと共にユダとシラスを派遣しますが、二人は同じことを口頭で伝えるでしょう。聖霊と私たちは、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷を負わせないことにしました。すなわち、偶像に献げた肉と、血と、絞め殺した動物の肉と、淫らな行いとを避けることです。以上を慎めばよいのです。では、お元気で。」
(使徒 15:23 ~29)

エルサレムの使徒会議は、ユダヤ人のエルサレム教会と異邦人教会との間で、福音理解の一致をもたらした有意義な会議であった。パウロはガラテヤ書で使徒会議について下記のように書いている。「忍び込んで来た偽兄弟たち（ユダヤ教的イエス信者）がいたのに、強いられなかったのです。彼らは、私たちがキリスト・イエスにあって持っている自由を狙い、私たちが奴隷にしようと忍び込んで来たのです。福音の真理があなたがたの内に常にとどまるように、私たちは、一時も彼らに屈服することはありませんでした。おもだった人たちにしても—彼らがそもそもどのような者であったにせよ、私には問題ではありません。神は人を分け隔てなさいません。—実に彼らは私に何も課すことをしませんでした。それどころか、ちょうどペトロが割礼を受けた者への福音を委ねられているように、私が割礼を受けていない者への福音を委ねられていることを認めました（2:4 ~7）。」パウロは、異邦人がユダヤ教の律法や割礼に縛られることなく、異邦人は異邦人のままで福音の救いに与ることができることを了解し合ったことをどれほど喜んだことであろうか。それは、キリストにある自由を確保することで、パウロにとって福音の核心であった。

使徒と長老たちは協議して、人を選び、パウロとバルナバと一緒にアンティオキアに遣わすことにした。選ばれたのは指導的な立場にいたユダとシラスで、使徒会議の決議事項を認めた手紙を二人に託した。手紙は「使徒と長老たちが兄弟として、アンティオキアとシリア州とキリキア州に住む、異邦人の兄弟たちに挨拶いたします」と丁寧に書き出している。そして、主イエス・キリストの名のために献身しているパウロとバルナバと共に、こちらからユダとシラスを派遣したので、彼らも口頭でも伝えるでしょう。手紙には、エルサレム教会から何の指示もないのに、色々なことを言って、あなたがたを騒がせ動揺させた者がいたが、聖霊と私たちは、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷（律法厳守）を負わせないことに満場一致で決めたと明記されていた。ただし、「血」に関するユダヤ教の戒律と淫らな行い（性的素乱）を避ければよいと、条件は付けられていた。

一行はアンティオキア教会に到着すると、手紙を読み、信者たちは励ましの満ちた言葉を聞いて喜んだ。ユダとシラスは福音宣教者であったので、話をして教会員たちを励ました。しばらく滞在した後、平和の挨拶を受けて、エルサレムに帰って行った。パウロとバルナバは教会に留まり、他の教会員と共に、主イエスの言葉を教え、福音を告げ知らせた。